

Minami Kyushu University Syllabus							
シラバス年度	2021	開講キャンパス		宮崎キャンパス	開設学科		健康栄養学部
科目名称 [英語名称]	教育心理学 [Educational Psychology]			実務経験 教員担当	○	アクティブ ラーニング	○
科目コード	410410	授業形態	講義	単位数	2	配当学年	2年次
教員氏名	神垣 彬子			学位授与の方針 との関連	DP1(1)(2),2(1)(2)		
授業概要	<p>児童・生徒の発達、記憶や学習の理論、動機づけと学習、認知発達、人格形成、対人関係と集団活動、教育現場における発達の個人差への対応、教育評価について講義する。 教育者として必要な教育心理学の知識を学び、教育実践との関わりについて考える。 保育現場での実務経験を有する教員が、実際の事例を取り入れた授業を行います。</p>						
関連する科目	教育心理学を受講する前に、心理学を受講しておくことが望ましい。						
授業の進め方と方法	講義は、パワーポイントや講義内容に沿った視聴覚教材を用いて行う場合がある。講義内容によっては、ディスカッションやロールプレイを用いて学びを深める場合がある。						
授業計画	<p>第1回: 教育心理学とはなにか 教育心理学は科学的視点を持って臨むことが求められる学問であり、教育現場における様々な事象を客観的な視点で捉えるとはどのようなことであるかについて学ぶ。</p> <p>第2回: 記憶力がいいとはどういうことか①: 短期記憶と長期記憶</p> <p>第3回: 記憶力がいいとはどういうことか②: 記憶の過程 教育現場における記憶に関連する事象に心理学の理論を応用し、より多くの事柄を記憶に残すためのテクニックを学び、効果的な教育的アプローチのための理論を学ぶ。</p> <p>第4回: 学ぶことと考えること①: 知識と学習</p> <p>第5回: 学ぶことと考えること②: 問題解決 教育現場における思考活動に関連する事象に心理学の理論を応用し、柔軟な思考の導き方を学び、効果的な教育的アプローチのための理論を学ぶ。</p> <p>第6回: ほめることの大切さ①: 条件づけ</p> <p>第7回: ほめることの大切さ②: モデリング 教育現場における褒めや叱りに関する事象に心理学の理論を応用し、子どもの意欲を伸ばす声掛けや配慮を学び、効果的な教育的アプローチのための理論を学ぶ。</p> <p>第8回: 「やる気」を考える①: 動機づけ</p> <p>第9回: 「やる気」を考える②: 原因帰属 教育現場における学習意欲に関連する事象に心理学の理論を応用し、結果に対する考え方のパターンと個人の傾向の組み合わせを学び、効果的な教育的アプローチのための理論を学ぶ。</p> <p>第10回: 学級という社会①: 学級集団の特殊性</p> <p>第11回: 学級という社会②: 児童・生徒の人間関係 教育現場における人間関係に関連する事象に心理学の理論を応用し、学校における人間関係の特殊性を学び、効果的な教育的アプローチのための理論を学ぶ。</p> <p>第12回: どのように教えるか 教育現場における学習方法に関連する事象に心理学の理論を応用し、様々な効果を持つ学習方法の特性を学び、効果的な教育的アプローチのための理論を学ぶ。</p> <p>第13回: 児童・生徒をどう評価するか 教育現場における評価に関連する事象に心理学の理論を応用し、それぞれの評価方法の特性を理解した上で、効果的な教育的アプローチのための理論を学ぶ。</p> <p>第14回: 児童・生徒の心身の発達に関する代表的理論と教育心理学との関係 教育現場における子どもの心身の発達に関連する事象に心理学の理論を応用し、学習レディネスの獲得状況や学習の最近接領域への教育的配慮を理解し、より効果的な教育的アプローチのための理論を学ぶ。</p> <p>第15回: 児童・生徒の運動、言語、認知、社会性の発達に対する教育心理学的アプローチの例 教育現場における子どもの心身の発達に関連する事象に心理学の理論を応用し、個々の子どもの個性や特性への教育的配慮を理解し、より効果的な教育的アプローチのための理論を学ぶ。</p>						
授業の到達目標	教育心理学の4領域、すなわち、発達、教授・学習、人格・社会・適応、評価・測定の観点から学び、教育心理学の基本的な用語を理解する。さらに、現在の学校教育の現状を踏まえて、教育心理学の視点から教育の問題をいかに分析し、解決を図っていくかについて考える力を身につける。【職業知識・技能の育成】						
授業時間外の学修	授業の前後にノートの予習・復習を必ず行い、前後の講義内容との関連性等に着目しながら学びを深める。当日の講義の復習箇所及び次回の講義の予習箇所については、講義終了前に毎回提示する。						
課題に対するフィードバック	回答例を提示する。			評価方法	レポート課題(基礎用語の理解と指定評価方法テーマに対する論述問題)100点の結果で評価する。		
テキスト	やさしい教育心理学 鎌原雅彦・竹綱誠一郎 著 有斐閣アルマ 2005						
参考書	適宜紹介する。						
備考							